

Ge空間情報センター

ニュースレター 第30号 2022年3月発行

【目次】

[1. TOPICS 「アーバンデータチャレンジ WITH インフラデータチャレンジ 2021 の振り返り」](#)

[2. 上位アクセス状況\(集計期間：2022.1.1-2.28\)](#)

[3. 最新のお知らせ](#)

[4. 駐留軍用地跡地利用における3D都市モデル整備・活用に向けた取り組み](#)

[5. 注目のコンテンツ紹介](#)

1. TOPICS 「アーバンデータチャレンジ with インフラデータチャレンジ 2021 の振り返り」



アーバンデータチャレンジ 2021 実行委員会
日本工営株式会社 伊藤 颯子

1. 通算9年目となるアーバンデータチャレンジ (UDC) のコロナ禍における挑戦

[アーバンデータチャレンジ](#)は、社会基盤情報を用いた地域課題解決を掲げた通年型のデータ活用型コミュニティ活動と公募型コンテストとの融合を特徴に継続的な取り組みを進めて来て、今年で9年目を迎えました。2019年度からは「UDC 第2期」と位置づけ、毎年重点分野として注目するデータ活用分野を設定した活動を行い、土木学会「インフラデータチャレンジ (IDC)」と共同運営体制にて活動の幅を広げました。

2021年度は、COVID-19禍が続く状況も踏まえ、各地域拠点でのオンラインでのコミュニティ活動を引き続き最大限奨励し、全体イベントもオンライン開催で実施することとしました。これまでメーリングリストで行ってきた各地域拠点と実行委員会とのコミュニケーションを、ビジネスメッセージングアプリ Slack で行う方法にシフトし、関係者間の交流活性化を図りました。また、近年の応募作品に民間ビジネスやアカデミックによる地域課題解決の作品が多い傾向を踏まえて昨年新設した「ビジネス・プロフェッショナル」部門を継続することにしました。

2. UDC with IDC 2021 最終審査会とその結果

UDC2021 の1年間を締めくくる最終審査会が、2021年3月12日（土）にオンライン形式で開催されました。全国から応募された130作品から一次審査を通過したファイナリスト 20 作品（一般部門：15、ビジネス・プロフェッショナル部門：5）によるプレゼンテーションが実施され、参加者による投票を経て、各賞の受賞作品が決定されました。

全体の最優秀作品となる金賞には「AEDシートとAED設置場所のオープンデータ化（UDC和歌山実行委員会）」が選ばれました。これは、主に上富田町内のAED設置場所を集約してオープンデータ化、可視化するアプリケーションを作成したのに加え、AEDの使用時に女性の上半身を覆う「AEDシート」を作製し、町内の設置場所の施設等に提供する活動にも繋げている取り組みです。

今年2年目のビジネス・プロフェッショナル部門の最優秀賞には「Arakawa Digital Twin Online -荒川3D河川管内図 河川管理情報プラットフォームの構築-（国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所）」が選ばれました。これは、荒川下流域のデジタルツインを構築し河川管理情報を一元化し、浸水深が視覚的にわかる3D洪水ハザードマップを公開する等、流域のまちづくりへの貢献を目指すアプリケーションを中心とした取り組みです。

最後に、UDC地域拠点から活動で最も優れたベスト地域拠点賞に「岐阜ブロック」が選出されました。これに伴い、2022年度のアーバンデータチャレンジが予定通りのスケジュールで開催される際には、中間シンポジウム（例年10～11月開催）を岐阜県で開催することとなります。来年度のアーバンデータチャレンジにもご注目いただき、イベント等ご参加ください！お楽しみに！

※イベント情報は[公式HP](#)や[Facebookページ](#)にてご案内しています。



図：受賞された皆さんとUDC2021実行委員による記念撮影

2.上位アクセス状況(集計期間：2022.1.1-2.28)

登録ユーザー数	10,672 名
期間アクセス数	337,539
登録組織数	582 件
データセット数	7,756 件
ファイル数	60,465 件

人気のデータセット

1	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (FBX 2020 年度)
3	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市町村単位発地別)
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (CityGML 2020 年度)
6	静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
7	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (FBX 4 次メッシュ 2020 年度)
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (OBJ 2020 年度)
9	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市町村単位発地別)
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 札幌市 (2020 年度)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは [こちら](#)

最新のデータ公開情報は [こちら](#)

申し込み受付開始☆2022 年度『超入門！GIS 初めて講座』[4 月期](#) [5 月期](#)

最新のイベントをいち早くキャッチしたい場合は、ぜひ Peatix でフォローをお願いします☆

G空間情報センターイベント最新情報は[こちら](#)からフォロー(Peatix)

4. 駐留軍用地跡地利用における 3D 都市モデル整備・活用に向けた取り組み



玉野総合コンサルタント株式会社

(左) 沖縄支店技術部 比嘉 一斗

(右) DX 推進室 黒岩 剛史

玉野総合コンサルタント株式会社 (以下、当社) は、土地区画整理を中心としたまちづくりをはじめ、道路・橋梁・河川・砂防・港湾・上下水道・ランドスケープなどの調査・計画・設計・施工管理・維持管理を行う総合建設コンサルタント会社です。

今回は、当社が携わっている内閣府沖縄総合事務局の「駐留軍用地跡地利用に関する市町村支援業務（アドバイザー派遣等業務）」のなかで市町村より相談を受け、検討した3D都市モデルの活用についてご紹介します。

2024年度以降が返還時期となっている駐留軍用地を有する関係市町村は、跡地利用計画策定及び地権者との協議等を推進することが急務となっています。それらの促進を図る方策として内閣府沖縄総合事務局では、国土交通省が推進している3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を行う事業「Project PLATEAU」の活用を視野に入れたうえで、跡地利用における3D都市モデル活用の可能性を検討しています。



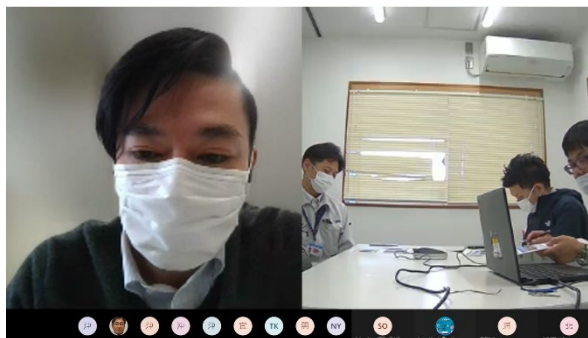
図：3Dモデルでみる返還予定区域と周辺市街地
(データはG空間情報センターより取得)

皆さんもご存じの通り、現状の3D都市モデルの整備は既成市街地を中心に進められているため、新規の都市開発・建設におけるユースケースはまだ少ない状況です。関係市町村の担当者へのヒアリングを進めるなかでも「3D都市モデルをどう活用したらいいか分からない」、「事例があればイメージしやすいと思う」といったご意見を頂きました。

一方、国土交通省へのヒアリングのなかでは、「周辺の既成市街地においてデータ整備を進めつつ、駐留軍用地跡地においては計画の検証等のために必要なBIMモデルを作成するなど、段階的な整備は可能」といったご助言や「3D化のメリットの一つが可視化であるため、効果があるのではないか」、「今後、土地所有者や周辺住民との計画づくりから事業完了までの様々な場面における合意形成の具体的なユースケースが出てくる可能性がある」といったご意見を頂きました。

本業務では、上記のヒアリングも踏まえ、跡地利用における3D都市モデル活用の視点やデータ活用方法、データ活用できる環境としてのソフトウェアの種類・特徴等について整理し、今後の課題も含めて関係市町村担当者に報告いたしました。

これらの取組みも、今後、都市開発・建設におけるユースケースの一つになり、G 空間情報センターで公開されている3D都市モデルの拡充につながることを期待しています。



図：関係4市町村と内閣府沖縄総合事務局とのWEBによる勉強会

国土交通省・市町村へのヒアリング結果

県内市町村とのヒアリング結果

【活用方法】

- 都市計画部署で扱うデータを整備し、住民が自ら確認・検討できる仕組みをつくる
- 地権者や住民への説明会におけるデモンストレーション、イメージ共有
- 視点場の検証等
- 防災や住民への説明に関する活用
- 建物高さ、景観（沿道や海からの見え方）イメージの共有

10



図：市町村ヒアリング結果の紹介

図：跡地利用における活用イメージの提示（那覇新都心地区の開発を例に説明）

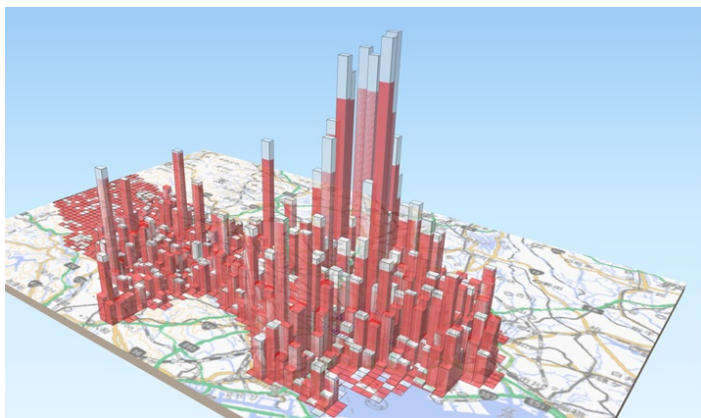
<お問い合わせ先>

玉野総合コンサルタント(株)沖縄支店

担当：比嘉 Mail：higa-kz@tamano.co.jp

5. 注目のコンテンツ紹介

全国の人流オープンデータ（1kmメッシュ、市町村単位発地別）



緊急事態宣言前後の東京の人流を比較してみました。

赤が緊急事態宣言下の2021年9月、白が宣言明けの同年10月の休日昼間の人流です。

東京駅、新宿駅、池袋駅周辺で軒並み3割程度増加しているのがわかります。

対象データセットは[こちら](#)

過去のニュースレターアーカイブは[こちら](#)

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール: info@geospatial.jp

TEL: 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。